

信越トレイルキャンプサイト整備事業

取組に至る背景・事業の目的

長野県と新潟県の県境にまたがる日本のロングトレイルの先駆けである「信越トレイル」。平成20年に全長80kmが全線開通し、県内外から年間約30,000人の利用者が賑わっている。

全線開通後、バックパッキングによる全線踏破のニーズが高まってきているが、現状ではキャンプスペースがないことから、キャンプサイトを整備し、より魅力あるトレイルづくりを目指すとともに、幅広く多様な層の利用者増加と地域の更なる活性化を図ることを目的とする。



【ブナ林の広がる信越トレイル】

事業内容

- ロングトレッキングのニーズを満たす、キャンプサイトの整備
- キャンプサイト案内看板の設置
- キャンプサイト案内チラシの作成
- ホームページによるキャンプサイト情報の発信



【整備されたキャンプサイト】

事業効果

- 全国誌の山岳やアウトドア関係の雑誌媒体による取材が複数あり、シーズン初めに信越トレイルキャンプサイトの記事が紹介された。今後もメディアを通じて、国内の本格的なロングトレイルの聖地としても認知向上へと発展すれば、全国からの利用者増にもつながることが期待される。
- 高校や大学の山岳部などから、信越トレイルにおけるキャンプサイトの整備について問い合わせや要望が上がっている。キャンプサイトが整備されることによりそれらの団体による利用（合宿）が増加することが望まれる。
- 本格的な登山やバックパッキングに興味を持つ若年層の取り込みが大きく期待される。
- 欧米を中心とする外国人は本格的なトレッキングに興じる人が多く、また韓国では登山ブームで近年北アルプスなどでも観光客が増加していることから、外国人の利用者増も今後期待できる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- キャンプサイトの整備には水場とトイレの確保が必須となるが、当初想定していた場所で水の確保ができず、新たな候補地を選定するのに時間がかかってしまい、23年シーズンの運用開始には間に合わなかった。また、利用者からはテント場間の距離が長すぎると言う声もあり、今後の課題となった。
- アンケートから改善できるところは改善し、国内のロングトレイルの先行モデルとしてのクオリティを保ち、更なる知名度を上げていきたい。また、潜在的な利用客と見込まれる学生、若年層、外国人等への情報提供を積極的に行い、利用者を増やし、地域活性化に繋げていきたい。

【選定のポイント】

行政、民間、NPOの協働による観光インフラ整備のモデル的取組み。4か所（うち支援金対象2か所）のテントサイトを整備すると同時に、専門誌等でのPRを積極的に行い、トレイルの魅力発信を効果的に行った。本取組はこの地域にとっての大きな観光資源となることが期待されることから、今後さらに幅広い地元住民の参加を期待したい。

団体名	信越トレイル維持活用推進連絡会 (飯山市)	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	0269-69-2888 (なべくら高原・森の家内)	事業費	2,016,235円
ホームページ	http://www.s-trail.net/	支援金額	1,040,000円